

平成29年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	多摩区第1グループ(枅形・長尾)	評価対象年度	平成29年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

	H28	H29	H28	H29			
利用実績	1 枅形こども文化センター ①年間延べ利用者数		27,362人	24,025人	②年間延べ利用団体数	334団体	325団体
	2 東生田小学校わくわくプラザ ①登録者数		295人	289人	②年間延べ利用者数	16,504人	18,630人
	1 長尾こども文化センター ①年間延べ利用者数		28,855人	29,228人	②年間延べ利用団体数	397団体	369団体
	2 稲田小学校わくわくプラザ ①登録者数		367人	386人	②年間延べ利用者数	23,844人	23,890人
	3 長尾小学校わくわくプラザ ①登録者数		119人	133人	②年間延べ利用者数	6,738人	8,502人
	収支実績	単位:円					
1 収入 指定管理料				97,051,306			
2 支出 人件費 管理費 事務経費 その他経費 合計		77,000,624 5,856,739 4,887,576 5,028,285 92,773,224					
3 差引				4,278,082			
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。						

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	3	6
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・特に、両こども文化センター・わくわくプラザともに、中学生のボランティアや職業体験の受け入れを積極的に行っており、これらボランティア等がきっかけとなって、以後、こども文化センターを利用するようになるなど、中学生の利用増につながっている。 ・長尾こども文化センターでは、今年度新たに、イベント「あつまれ～1, 2, 3♪」を通じて稲田中学校の生徒や宿原小学校5、6年生と乳幼児が触れ合う機会を設け、多世代交流や、他者尊重の精神を学ぶきっかけづくりを行ったほか、部活の合間や終了後にイベント準備の手伝いに来るなど、ボランティアのきっかけづくりにもなっている。 ・また、両こども文化センターとも、中学生の居場所づくりに力を入れており、枅形こども文化センターでは、昨年度に引き続き、「枅形ホッとステーション」として、テスト期間中の中学生が勉強したり寛いたりできる専用室を設けており、今年度は中学生を対象とした卓球大会を開催するなどした結果、中学生の居場所としての認識が徐々に浸透している。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	4	8
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3	
(評価の理由) ・利用者ニーズについて、意見箱の活用や利用者アンケート、子ども運営会議等を通して、利用者ニーズ把握に努め、施設利用ルールの改定等に利用者意見を反映しているとともに、苦情等への対応が適切に行われている。 ・特別な配慮を要する利用者への対応について、個別連絡ノートを作成し、保護者との情報共有を行うとともに、幼稚園や小学校等と連携しており、個々の児童に合わせた対応をしている。 ・学校及び地域との連携について、地域教育会議や学校と連携して、小中学生の職業体験の受け入れを積極的に行っているほか、両こども文化センターとも老人いこいの家との合築館である利点を生かし、連携してイベント等を実施する等、地域交流を図っている。 ・特に、第1グループ合同事業として、今年度新たに岡本太郎美術館と連携してイベント「きみも岡本太郎になろう！」を実施したり、東生田小わくわくプラザでは、専修大学ネットワーク情報学部との連携により、食育をテーマとしたイベント「いただきます～感謝を伝えるプロジェクションマッピング～」を初めて実施したりと、新たな主体との連携を強化した。 ・施設・事業の広報について、こども文化センターたより、乳幼児向けチラシや中学生だより等を発行しており、配布先の新規開拓も行っている。特に、枅形こども文化センターでは、「枅形ホッとステーション」開設日は中学生たよりで広報し、枅形中・稲田中の全校生徒に配布するなどしている。長尾こども文化センターでは、ホームページにおいて、特色ある行事の写真を大きく表示して見やすくする等の工夫を行うなど、効果的な広報を行っている。					

組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
(評価の理由) ・適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。特別な配慮を要する利用者についても、状況に応じた人員配置ができています。 ・職員の研修体制については、運営法人の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修が行われていた。また、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員がその知識を共有しており、研修資料やレポートをファイル等に一元化し、職員が閲覧出来る等、共有化の仕組み作りが出来ている。特に、長尾こども文化センターで実施した「野外活動研修」では、防災宿泊体験に向けて、危機予知トレーニングや動線確認を行い、簡易トイレや新聞紙スリッパ作り等を学び、「防災宿泊炊き出し体験－こ文に泊まろう」の実施に活かされた。 ・個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	4	4
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	4	4
災害発生時に備えた対応が図られているか。					
災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。					
(評価の理由) ・施設・設備の保守管理については、こども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。 ・利用者の安全確保については、財団作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行うとともに、実際の事故やヒヤリハット事例をもとに法人本部で「事例検討シート」を年2回作成し、館長会議、各館での職員会議、スタッフ会議と三階層において議論を重ね、そこで得られた対応策を集約して共有するなど、職員等の資質向上を図っている。また、こども運営会議で、事故があった場所を伝え、わくわくプラザや校庭の危険箇所を記載した地図を共有している。 ・防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。 ・また、子どもたちが地域の方や運協と地域を回り安全マップを作成する等、自助・互助の取組を積極的に進めるとともに、地域団体や警察等との連携を図りながら、防犯・防災対策に積極的な行動をしている。特に、桃形こども文化センターでは、老人いこいの家と共催で実施している合同避難訓練に、新たに地域子育て支援センター利用者にも参加してもらっており、長尾こども文化センターでは、町会・避難所運営委員会との連携のもと、防災炊き出し宿泊体験を実施したりと、地域や関係機関との積極的な連携を図っている。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
	支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。				
(評価の理由) ・金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 ・受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。					

4. 総合評価

評価点合計	67	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

こども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に長年に渡り携わってきた経験を活かし、安定した施設運営を実施している、市内20グループの指定管理を行うスケールメリットを活かし、全グループ合同行事、区合同行事等に加え、各館独自の事業、新規事業にも取り組んでいる。
特に、岡本太郎美術館や大学など、様々な主体との連携事業の実施により、地域に根差した事業を行っている。
また、各種研修に参加し、職員の資質向上に努め、良質なサービスを提供している。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子ども顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。